

シカ対策部会の報告

1 議題

- (1) 早池峰山シカ関連調査報告 → 資料 4-1
- (2) 早池峰山周辺国有林におけるニホンジカ対策事業概要 → 資料 4-2
- (3) 早池峰シカ監視員の活動結果について
- ア 早池峰シカ監視員による自動撮影カメラ調査結果 → 資料 4-3
- イ 早池峰シカ監視員報告書取りまとめ → 資料 4-4
- (4) 早池峰地域への防鹿柵の設置結果について → 資料 4-5
- (5) 現状と今後の取組について → 資料 4-6

2 主な質疑・意見交換内容

(1) 早池峰山シカ関連調査報告（県立博物館）

ア 早池峰センサーカメラ調査結果

- ・昨年に同様に、高標高に設置したカメラにおいてメスの撮影頭数が増加した。高山帯に対するシカの慣れと、植生への影響の増大が危惧される。
- ・標高 1,885m（御田植場）で出没頭数が引き続き増加しており、植生衰退は深刻な状況。
- ・これまでシカが撮影されなかった 1,560m 地点で撮影頭数がじわじわと増加している。

イ 食痕・植生調査結果

[河原の坊登山道]

- ・傾向に大きな変化はなく、森林帯で裸地化の進行。
- ・上部の川沿いでも植生が消え落葉層が流出し、小規模な土砂崩れが進行。

[小田越登山道]

- ・森林帯で植物相の単純化、裸地化、乾燥化、低木の枯死が進行。
- ・風衝草原では、見通しがよい地点のため食痕は発見されない。
- ・雪田草原では、植生衰退が著しく、低木の枯死が急速に進行中

<主な質問意見等> なし

(2) 早池峰山周辺国有林におけるニホンジカ対策事業概要（東北森林管理局）

- ・早池峰山周辺地域ニホンジカ生息状況調査を実施。平成 23 年度、平成 29 年度、令和 3 年度の調査結果と比較して評価を行う。
- ・植生保護柵は、既設分の維持管理を実施。門馬コースで実生繁殖が確認されたため、来年度は、R6 年度から設置している 3 か所の向かい側の箇所に新たな柵の増設を検討している。
- ・林道除雪による捕獲支援を 12 月～3 月で実施中。
- ・誘引捕獲の実施。三陸北部署は 10 月～12 月まで委託事業により捕獲を実施し、19 頭捕獲。遠野支署は 12 月～3 月まで委託事業により実施中。
- ・森林管理署、地元自治体、地元猟友会等とニホンジカ被害対策に係る協定を締結し、くくりわなの貸出による捕獲支援を実施。

<主な質問意見等>

- ・早池峰地域へのくくりわなの貸出は何基か。
⇒（遠野支署）くくりわな 52 基貸与中、10 基を早池峰ダム周辺の私有林に設置している。
- ・くくりわなにクマやイノシシがかかった例はあるか。
⇒（猟友会）小さいのでクマは入らない。

- ・実生繁殖が確認されたのはコアツモリソウか。
⇒（東北森林管理局）コアツモリソウ
- ・遠野支署の前年度捕獲実績は。
⇒（東北森林管理局）6頭

(3) 早池峰シカ監視員の活動結果について

- ア 早池峰シカ監視員による自動撮影カメラ調査結果
 - ・昨年度と比較して4地点で撮影頭数が増加。
- イ 早池峰シカ監視員報告書取りまとめ

[花巻地域]

- ・同じメス個体が毎年出現していることが確認でき、早池峰で夏を過ごした親子シカは毎年戻ることが推測される。
- ・9月には繁殖準備のため高山帯からうすゆき山荘付近の麓へ移動する個体が増加していることが伺え、上部が笹に覆われている標高900～1,000m前後の地点は人間が容易に立ち入ることは難しいので、繁殖地になっている可能性が大きい。

[宮古地域]

- ・冬期のシカがいない期間が短くなった。
- ・1,375mの地点で初めてイノシシが撮影された。
- ・門馬コース分岐を境に食害の違いが顕著で、東側は著しいのに対し西側は山頂まで食害が見られなかった。

<主な質問意見等> なし

(4) 早池峰地域への防鹿柵の設置結果について

- ・令和7年度の防鹿柵設置結果について、柵内は植生の回復が見られた。一方、柵内のシカの侵入も確認された。
- ・正しく設置し、点検・メンテナンス作業も実施する必要がある。

<主な質問意見等>

- ・コバイケイソウは毒があるがシカは食べるのか。
⇒（県立博物館）他に食べる植物が無い場合は、食べる。特に春は柔らかいので食べやすい。

(5) 現状と今後の取組について

- ・令和8年度は、希少種が確認されている5合目と、シカ出没が増加している高標高に2か所の合計3か所の防鹿柵を新設する。
- ・高標高の柵は、資材を三陸北部森林管理署が小田越3～4合目に保管していたものを提供いただき、今年度運搬した。（全体の半分）
- ・試験的な植生回復モニタリングのために、小田越3～4合目の裸地化した箇所について、条件を変えた柵を合計4箇所設置し、回復具合をモニタリングする。

<主な質問意見等>

- ・部会の構成員ではないが、協議会の構成員の山岳・スポーツライミング協会に所属している高校生や大学生は、多いので、防鹿柵設置の人員として声がけするべきだと思う。
- ・背の低い植物を守るということであれば植生に応じた低い柵であれば設置も楽である。
⇒（事務局）検討していくこととした。

2025年度 早池峰山シカ関連調査 報告

鈴木まほろ（岩手県立博物館）

1. 早池峰山センサーカメラ調査結果

- | | | |
|-----|-------------------|-------|
| 1-1 | 結果まとめ | p.2 |
| 1-2 | センサーカメラ設置位置及び撮影結果 | p.3 |
| 1-3 | 各カメラの撮影結果 | p.4-5 |
| 1-4 | 年次比較 | p.6 |

2. 食痕調査・植生モニタリング結果 p.7-11

1. 早池峰山センサーカメラ調査結果

p. 2

1-1 方法と結果まとめ

<方法>

2025年5月下旬～10月中旬にセンサーカメラ15台により動物の出没を記録した。カメラは静止画3枚連続撮影・不稼働時間30秒以下に設定した。得られた各画像から動物の種と数を読み取り記入し、合わせて、複数の画像に写る個体が同一と判断できる場合は1頭として出没頭数を算出した。

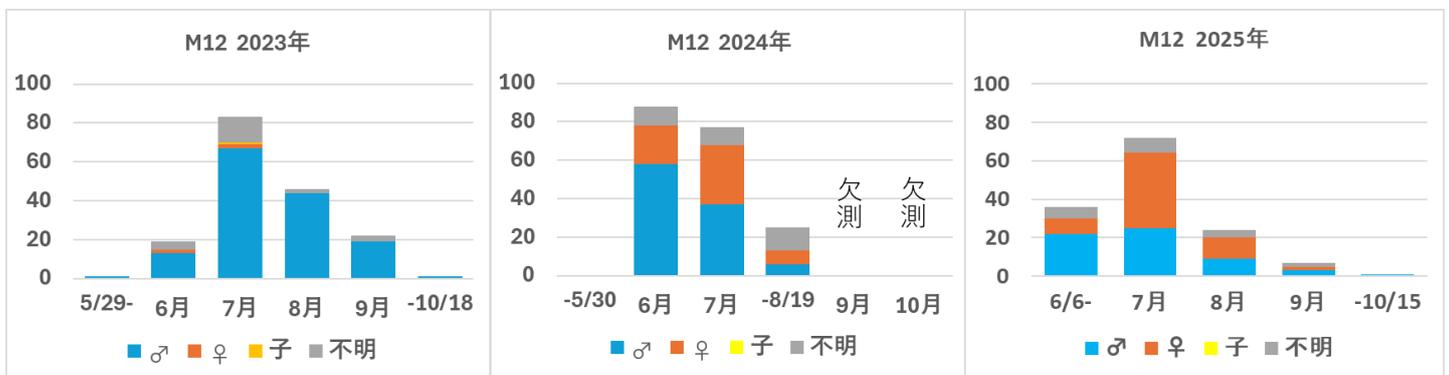
<結果まとめ>

高標高（1500m以上）に設置したカメラのうち、広い草原に設置したカメラ（M12, M18, M25）では、低標高のカメラと同程度か、それ以上に高頻度でシカが撮影されていた。一方、岩場に囲まれた草地に設置したカメラ（M23, M24）や、見通しの良い斜面のカメラ（M11, M19, M20）では、シカが全く撮影されないか、ごく少数であった。これは昨年と同様の傾向である。

悪い変化として、下記の3点が指摘できる。

- ・昨年に引き続き、M12のカメラでメスの撮影頭数が増加中。高山帯に対するシカの「慣れ」と、植生への影響の増大が危惧される。
- ・M18（御田植場）で出没頭数が引き続き増加中。御田植場の植生衰退は深刻な状況である。
- ・これまでシカがほとんど撮影されなかったM20で、撮影頭数がじわじわと増加している。ハヤチネウスユキソウやナンブトラノオなど固有種の植物が集中する環境であり、影響が強く危惧される。

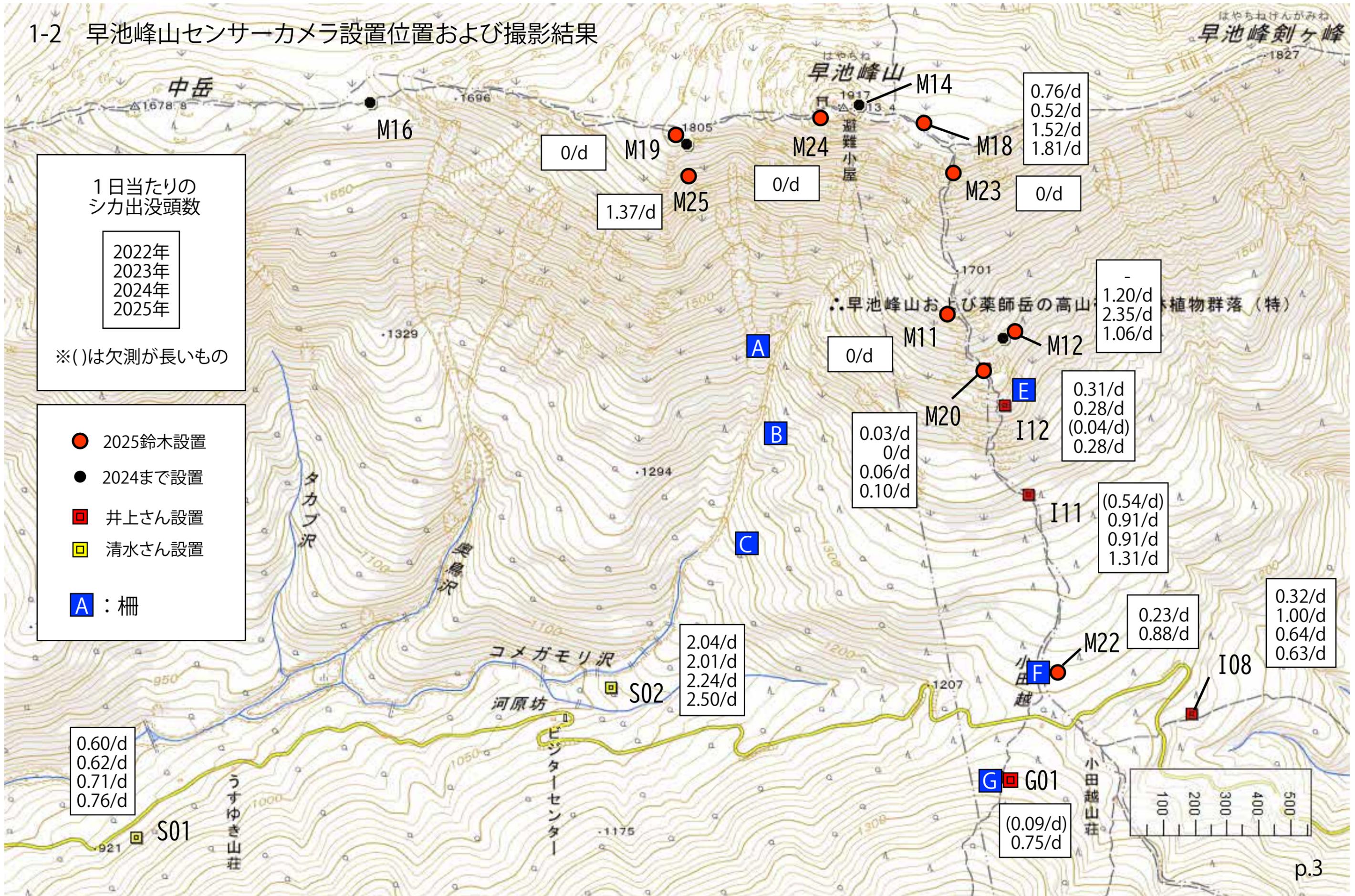
M12の撮影結果 3年間の比較



M18の撮影結果 3年間の比較



1-2 早池峰山センサーカメラ設置位置および撮影結果



1-3 各カメラの撮影結果 2025年5月～10月 その1

No.	標高(m)	設置	最終	設置日数	欠測始	欠測終	欠測日数	実測日数	シカ♂	シカ♀	シカ仔	シカ不	備考	シカ計	1日当
S01	940	5/22	10/29	161				161	25	88	3	6		122	0.76
S02	1065	5/22	10/29	161				161	67	274	44	18		403	2.50
G01	1272	5/23	10/18	149				149	48	40	8	16		112	0.75
I08	1177	5/13	10/19	160				160	34	42	5	19		100	0.63
I11	1375	5/23	10/19	150				150	70	74	34	18		196	1.31
I12	1530	5/23	10/19	150				150	25	5	0	12	柵	42	0.28
M11	1650	5/27	10/15	142	6/4	6/5	2	140	0	0	0	0		0	0.00
M12	1590	6/6	10/15	132				132	60	60	0	20		140	1.06
M18	1885	5/27	10/15	142				142	243	0	0	14		257	1.81
M19	1802	5/27	10/15	142				142	0	0	0	0		0	0.00
M20	1560	5/27	10/15	142				142	13	0	0	1		14	0.10
M22	1250	6/30	10/15	108				108	13	35	15	32	柵	95	0.88
M23	1860	5/27	10/15	142	6/10	6/30	21	121	0	0	0	0		0	0.00
M24	1900	5/27	10/15	142				142	0	0	0	0		0	0.00
M25	1749	5/27	10/15	142				142	179	5	0	10		194	1.37

参考 2024年

No.	標高(m)	設置	最終	設置日数	欠測始	欠測終	欠測日数	実測日数	シカ♂	シカ♀	シカ仔	シカ不	備考	シカ計	1日当
S01	940	5/3	10/31	182				182	26	70	3	30		129	0.71
S02	1065	5/3	10/31	182				182	95	256	32	24		407	2.24
G01	1280	5/3	8/26	116				116	2	4	0	4	柵	10	0.09
I08	1180	5/3	10/24	175				175	24	58	9	21		112	0.64
I11	1370	5/6	10/21	169				169	58	65	9	22		154	0.91
I12	1530	5/3	10/21	172	5/26	7/10	46	126	5	0	0	0	柵	5	0.04
M11	1650			-				-						-	-
M12	1590	5/30	8/18	81				81	101	58	0	31	(柵)	190	2.35
M14	1900	5/30	10/17	141				141	3	0	0	1		4	0.03
M16	1630	5/30	10/17	141				141	46	20	0	5		71	0.50
M18	1885	5/30	10/17	141			1	140	188	2	0	23		213	1.52
M19	1798	5/30	10/17	141			1	140	5	0	0	3		8	0.06
M20	1560	5/18	10/21	157				157	8	0	0	2		10	0.06
M22	1250	5/30	10/17	141				141	16	8	0	8	柵	32	0.23

参考 2023年

No.	標高(m)	設置	最終	設置日数	欠測始	欠測終	欠測日数	実測日数	シカ♂	シカ♀	シカ仔	シカ不	備考	シカ計	1日当
S01	940	4/19	11/9	205	5/1	5/23	23	182	23	73	9	7		112	0.62
S02	1065	5/8	11/9	186				186	68	245	40	20		373	2.01
I08	1180	5/13	10/24	165				165	32	102	11	20		165	1.00
I11	1370	5/5	10/24	173				173	54	80	7	16		157	0.91
I12	1530	6/10	10/24	137				137	4	25	0	10	柵	39	0.28
M11	1650	-		-				-						-	-
M12	1590	5/29	10/18	143				143	145	4	1	22	柵	172	1.20
M14	1900	5/29	10/18	143				143	0	0	0	0		0	0.00
M16A	1630	6/19	10/18	122				122	44	25	0	13		82	0.67
M16B	1630	6/19	10/18	122				122	67	37	2	20		126	1.03
M18A	1885	5/23	10/24	155	5/31	6/10	11	144	48	0	0	0		48	0.33
M18B	1885	6/19	10/18	122				122	64	0	0	0		64	0.52
M19	1798	6/19	10/18	122	8/11	8/27	17	105	48	2	0	24		74	0.70
M20	1560	5/23	10/24	155				155	0	0	0	0		0	0.00

1-3 各カメラの撮影結果 2025年5月～10月 その2

No.	標高(m)	カモシ	ノウサ	クマ	テン	タヌキ	アナグ	キツネ	ネズミ	トリ	ハクビ	リス	イノシ	備考
S01	940	4	0	0	2	3	5	0	0	1	0	1	1	
S02	1065	4	0	2	1	1	0	0	0	0	2	0	0	
G01	1272	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	移動
I08	1177	2	0	2	4	0	0	0	0	0	0	1	0	
I11	1375	1	17	2	2	0	0	0	0	3	0	4	0	
I12	1530	2	14	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	柵内14回
M11	1650	6	63	0	2	0	0	6	8	11	0	0	0	
M12	1590	0	30	5	6	2	0	0	23	45	1	0	0	
M18	1885	5	68	0	0	0	0	2	0	4	0	0	0	
M19	1802	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	移動
M20	1560	2	18	0	1	0	0	1	0	15	0	0	0	
M22	1250	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	移動
M23	1860	3	12	0	1	0	0	8	0	12	0	0	0	
M24	1900	31	4	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	
M25	1749	15	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

参考 2023年

No.	標高(m)	カモシ	ノウサ	クマ	テン	タヌキ	アナグ	キツネ	ネズミ	トリ	ハクビ	リス	イノシ	備考
S01	940	0	0	2	3	0	3	1	0	0	0	0		
S02	1065	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0		
G01	1280	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0		柵内1回
I08	1180	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	3		
I11	1370	2	3	2	1	0	0	1	0	0	0	2		
I12	1530	0	15	3	0	0	0	1	0	19	0	0		柵内0回
M11	1650													
M12	1590	2	39	1	2	0	0	1	0	14	0	0		
M14	1900	10	7	0	0	0	0	3	0	1	0	0		
M16	1630	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
M18	1885	3	64	0	0	0	0	3	0	0	0	0		
M19	1798	16	6	0	0	0	0	1	0	10	0	0		
M20	1560	1	2	1	0	0	0	0	0	6	0	0		
M22	1250	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		

参考 2023年

No.	標高(m)	カモシ	ノウサ	クマ	テン	タヌキ	アナグ	キツネ	ネズミ	トリ	ハクビ	リス	イノシ	備考
S01	940	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		
S02	1065	2	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0		
I08	1180	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0		
I11	1370	1	15	4	5	0	1	2	0	0	0	0		
I12	1530	4	2	3	0	0	0	0	0	1	0	0		柵内10回
M11	1650													
M12	1590	0	6	1	0	0	0	3	0	11	0	0		柵内24回
M14	1900	6	0	0	0	0	0	1	0	49	0	0		
M16A	1630	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
M16B	1630	1	2	0	2	0	1	1	0	0	0	0		
M18A	1885	3	20	2	1	0	0	4	0	12	0	0		
M18B	1885	6	16	1	0	0	0	3	0	1	0	0		
M19	1798	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
M20	1560	0	6	0	0	0	0	3	0	7	0	0		

1-4 各カメラの撮影結果 年次比較（出沒頭数／日）

No.	標高(m)	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
M01	550	5.44	5.77	未	未	未	未	未
S01	940	2.16	1.55	1.33	0.60	0.62	0.71	0.76
S09	970	-	0.69	0.46	1.59	-	-	-
S07	1050	-	0.41	0.54	0.59	-	-	-
S02	1065	0.56	1.25	1.04	2.04	2.01	2.24	2.5
ST1	1130	-	-	1.14	0.72	-	-	-
I08	1180	1.06	0.71	0.69	0.32	1.00	0.64	0.63
S08	1180	-	0.50	-	-	-	-	-
S08B	1180	-	0.69	0.80	0.27	-	-	-
I14B	1230	-	0.13	0.44	0.41	-	-	-
S03	1250	0.44	0.33	0.48	0.32	-	-	-
M22	1250	-	-	-	-	-	0.23	0.88
G01	1272	-	-	-	-	-	(0.09)	0.75
I17	1280	1.74	0.22	0.10	0.24	-	-	-
I10	1290	0.23	-	-	-	-	-	-
I11	1370	1.17	1.58	0.57	0.54	0.91	0.91	0.91
I19	1374	-	1.68	0.97	1.64	-	-	-
S04	1380	0.04	-	-	-	-	-	-
S05	1420	0.10	0.48	0.37	0.51	-	-	-
S06	1500	0.00	-	-	-	-	-	-
I12	1530	1.13	0.23	0.26	0.31	0.28	(0.04)	0.28
I16	1530	0.89	0.62	0.60	1.10	-	-	-
M20	1560	0	0	0.01	0.03	0	0.06	0.1
M12	1590	1.52	0.43	1.10	-	1.20	2.35	1.06
M16	1630	0.19	0.47	0.83	-	1.03	0.50	-
M11	1650	0.02	0.00	0.00	0	-	-	0
M21	1650	-	0	-	-	-	-	-
I18	1680	0.52	0.84	0.90	0.94	-	-	-
M13	1680	0.86	0.67	0.71	-	-	-	-
M25	1740	-	-	-	-	-	-	1.37
M19	1798	-	-	0.02	0.03	0.70	0.06	0
I15	1790	0	-	-	-	-	-	-
I20	1819	-	0.49	0.54	0.15	-	-	-
I14	1850	0	-	-	-	-	-	-
M23	1860	-	-	-	-	-	-	0
I13	1880	0	-	-	-	-	-	-
M17	1885	-	0	0.01	0	-	-	-
M18	1885	-	-	0.04	0.76	0.52	1.52	1.81
M14	1900	0	0	0	0	0	0.03	-
M15	1900	0	0	0	-	-	-	-
M24	1900	-	-	-	-	-	-	0

2. 食痕調査・植生モニタリング結果

(1) 河原坊・小田越登山道 定例シカ食痕調査 (2015年～継続)

<調査日時・場所>

2025年7月29日(火) 10:00～14:00 (早池峰GVと合同)

河原坊登山道 登山口(標高1,050m)～頭垢離付近(1,400m)

2025年8月15日(金) 7:30～17:00

小田越登山道 登山口(標高1,250m)～山頂(1,917m)～あきらケルン(1,805m)

<小田越登山道 調査地点>

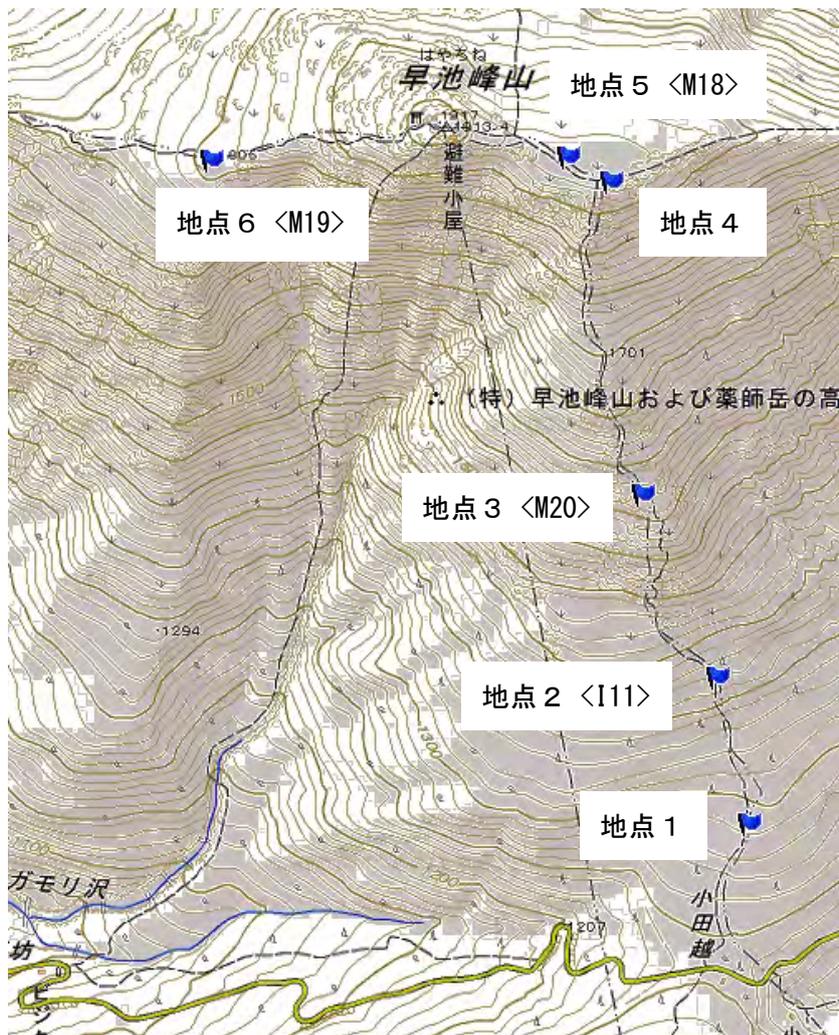


図1 食痕調査地点

地点1・2：樹林帯 地点3：3合目(風衝草原) 地点4：剣ヶ峰分岐(風衝草原)
 地点5：御田植場(雪田草原) 地点6：あきらケルン(風衝草原)

<記録方法>

ルート上で草食動物による食痕のあった種と、その頻度の目視確認・写真記録を行った。

小田越登山道では、上記に加え、登山道沿いに設けた6つの固定地点において、定点間を1m間隔で撮影記録した。(地点3・6は2022年新規設定。)

<結果>

1) 河原坊登山道 (森林帯)

傾向に大きな変化なし。下部では裸地化が進行。上部の川沿いでも植生の消失や落葉層の流失、小規模な土砂崩れが進行。ほとんどの草本が食べられており、開花に至った種はごくわずか。

頭垢離上部(柵の外側)でも、重要種を含めて食痕が増加。

2) 小田越登山道

森林帯(地点1・2) フロラの単純化と裸地化、乾燥化、低木の枯死が継続的に進行中。

風衝草原(地点3・地点4)・・・食痕は発見されなかった。ハイマツの伸長が顕著。

雪田草原(地点5)・・・植生衰退、裸地化、低木の枯死が急速に進行中。

風衝草原(地点6)・・・食痕は発見されなかった。特に変化は見られない。

3) 固有種の食痕

ミヤマヤマブキショウマ、ナンブトウウチソウに食痕が見られた。

地点 < 2 - 3 >



2015



2017



2019



2021



2023



2025

地点 < 4 - 2 >



2015



2017



2019



2021



2023



2025

<地点 5 - 3 >



2015



2017



2019



2021



2023



2025

令和7年度早池峰地域シカ対策部会

令和8年1月28日

早池峰山周辺国有林におけるニホンジカ対策事業概要

林野庁 東北森林管理局

事業名	令和7年度事業内容	令和8年度予定
早池峰山周辺地域ニホンジカ生息状況調査	<p>【目的】 ニホンジカによる森林内での樹皮剥ぎ及び枝葉や下層植生への食痕が見られ、高山植物への食害が発生している早池峰山及び周辺地域において、岩手県と連携し、有識者等の意見を踏まえながら、モニタリング調査等を実施してニホンジカの生息状況を把握し、今後のニホンジカ対策等に資する。</p> <p>【方法】 ・糞粒法によるニホンジカ生息密度調査 早池峰山周辺森林生態系保護地域及び周辺地域において、糞粒法による密度調査を実施し、生息密度分布を明らかにする。 また、平成23年度及び平成29年度並びに令和3年度の調査結果と比較し評価を行う。 調査対象区域は1kmメッシュの調査プロットを30箇所設定して調査を実施し、調査プロットは1カ所あたり1m×100mの区画(大プロット)を設定し、具体的な調査は小プロット(1m×1m)ごとに調査をする。 事業期間は4月～3月。</p> <p>【実施状況・成果】 ・糞粒調査:9月下旬に30箇所を調査。 ・2月5日(木)、岩手県及び有識者等からなる調査検討委員会を開催予定。</p>	委員会での意見及び予算配賦に基づき検討
「早池峰国定公園内の国有林野における防鹿柵(植生保護柵)の設置に関する協定」の締結	<p>【目的】 全域が国有林野である早池峰国定公園において、岩手県と国有林が連携して植生保護柵を設置し、被害拡大の防止や植生の回復を図る。</p> <p>【方法】 令和元年6月28日付で、岩手県環境生活部長、三陸北部森林管理署長及び岩手南部森林管理署遠野支署長の3者が協定(協定期間は1年間)を締結し、植生保護柵の設置等に係る連携強化及び入林届等の事務手続の簡素化を図る。 同協定は令和7年3月31日に更新締結しており、協定期間は令和8年3月31日まで。</p> <p>【実施状況・成果】 岩手県及び国有林が設置した植生保護柵の既設総延長は1,123m</p>	協定を更新しつつ、引き続き3者で連携して、植生保護柵の設置及び維持管理について取り組む
植生保護柵設置による高山植生の保護(早池峰山周辺森林生態系保護地域)	<p>【目的】 ニホンジカによる高山植生への被害が発生している早池峰山周辺森林生態系保護地域において、固有種を含む高山植物への被害拡大の防止や植生の回復を図る。</p> <p>【方法】 有識者等の意見を踏まえて、優先的に保護が必要な箇所において、岩手県と連携して植生保護柵を設置する。</p> <p>【実施状況・成果】 植生保護柵の設置と既設部分の維持管理。(設置場所は別紙1参照) 5～10月にかけて、河原の坊コース、門馬コースに9箇所、延長は373m(9箇所)の設置を実施した。 小田越コース440mは高山植物へのニホンジカによる食害を防護したが、当初の目的を果たさなくなったことから、見直しを検討した結果、設置を行わないこととし、資材等の撤去を行った。(R6～R8) 門馬コースはコアツモリソウ、ヤブヒョウタンボクの保護を目的とし柵を継続設置した。 10月下旬には積雪による破損防止のため、各植生保護柵のネットを格納。</p>	有識者等の意見を踏まえて、関係機関と連携して実施予定 門馬コースに既設柵周辺で実生繁殖が確認されたため増設を検討。

林道除雪による捕獲支援	<p>【目的】 積雪期に国有林内の林道除雪を実施し、指定管理鳥獣捕獲等事業を支援する。</p> <p>【方法】 岩手県・県猟友会と除雪する路線を調整した上で、国有林の林道除雪を実施する。</p> <p>【実施状況・成果】 12月～3月に実施予定。 三陸北部森林管理署管内(宮古市):1路線、遠野支署管内(遠野市):6路線</p>	12月～3月に実施予定
鳥獣被害対策協議会等への積極的な参画による地域との連携	<p>【目的】 地域におけるニホンジカ対策のニーズの把握、地域と連携した対策の検討・実施。</p> <p>【方法】 遠野支署及び三陸北部森林管理署が地元の鳥獣被害対策協議会等へ参画。</p> <p>【実施状況・成果】 遠野支署、三陸北部森林管理署は捕獲事業の状況と今後の対応について情報提供。</p>	引き続き協議会へ参画
ニホンジカ被害防除事業(誘引捕獲)の実施	<p>【目的】 市町村の鳥獣被害対策協議会等と連携を図り、森林被害の軽減を図るため、効率的なニホンジカの捕獲に取り組む。</p> <p>【方法】 三陸北部署:誘引餌を用いたくくりわなによる捕獲を実施。 遠野支署:越冬地箇所での誘引餌を用いたくくりわなによる捕獲を実施。</p> <p>【実施状況・成果】 三陸北部署:宮古市立丸山国有林で10月～12月まで委託事業により誘引捕獲を実施し19頭を捕獲。 遠野支署:花巻市鶏頭山国有林等で12月～3月まで委託事業により実施中。</p>	引き続き、同種事業を実施予定
協定に基づいた市町村等へのワナ貸出しによるニホンジカ捕獲支援	<p>【目的】 地域での捕獲対策を推進するため、わな貸し出しを行い、国有林及び地域によるニホンジカ対策に係る協力体制を構築する。</p> <p>【方法】 森林管理署、地元自治体及び地元猟友会等とニホンジカ被害対策に係る協定を締結し、くくりわなの貸し出しを行い捕獲頭数を森林管理署に報告。</p> <p>【実施状況・成果】 ・遠野支署 遠野市へくくりわな100基貸与。捕獲頭数は集計中。 花巻市有害鳥獣被害防止対策協議会へ、くくりわな52基貸与。捕獲頭数は集計中。 ・三陸北部署 宮古市鳥獣被害防止対策協議会と協定を締結しているが今年度のわな貸付なし。</p>	協定に基づいて引き続き取り組みを継続

令和7年度 早池峰山植生保護柵 設置位置図

●:岩手県 ●:三陸北部署 ●:遠野支署

(この他、県道25号線沿いに岩手県が3箇所設置)

岩手県:750m、三陸北部署:123m、遠野支署250m、

合計1,123m設置

①②③標高900m
付近19m,14m,23m
設置 (R6)

④: 標高1,000m付近
30m設置 (H30)

⑤標高1,050m付近
19m設置 (R6)

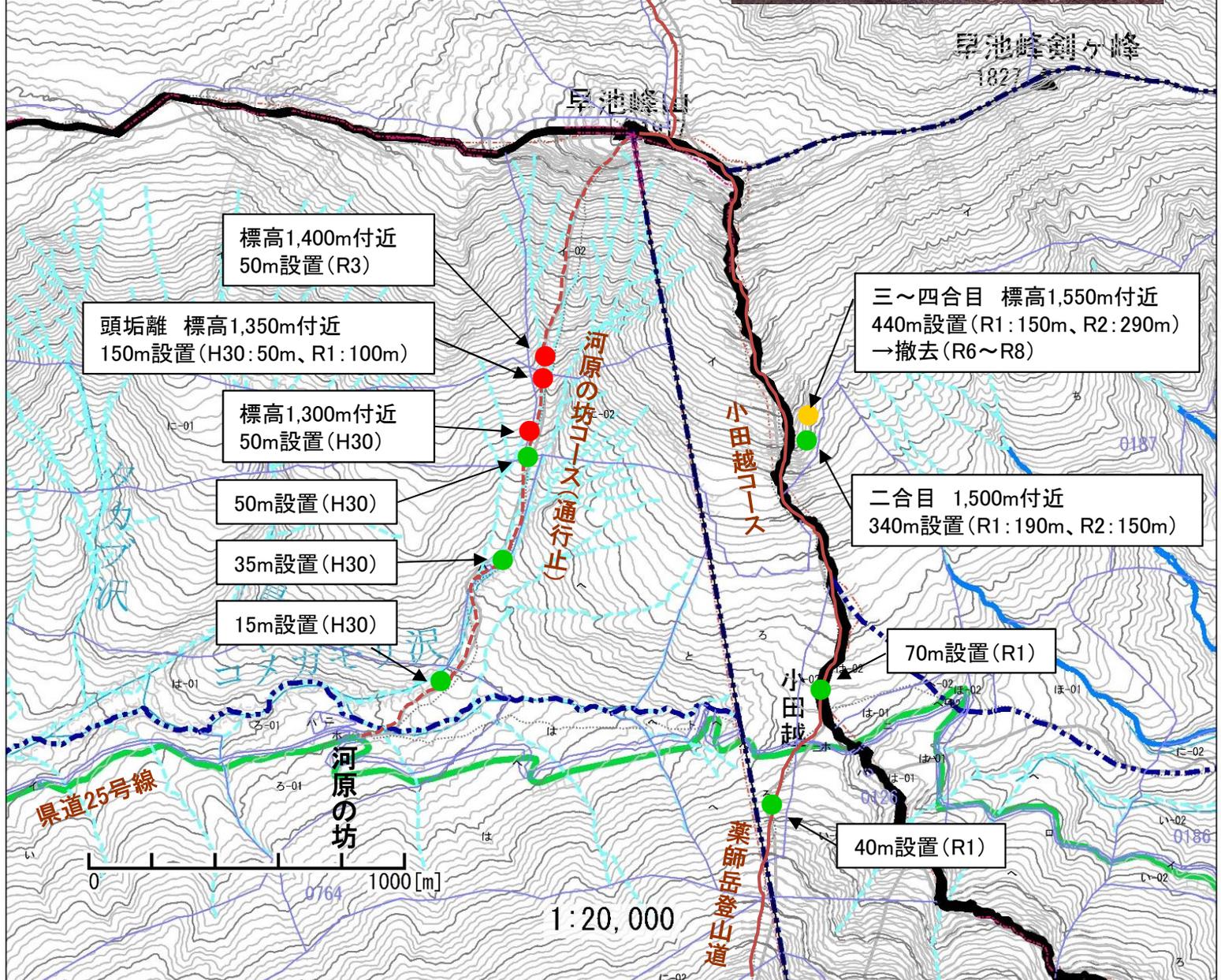
⑥標高1,050m付近
18m設置 (R6)



河原の坊コース 標高1,400m付近



門馬コース 標高900m付近



Ⅲ 松中根
△1088.71

ほ ① ② ③
鳥 定 生

は ① ② ③
鳥 定 生

増設検討箇所

と ① ②
鳥 定 生

324

し ① ② ③
鳥 定 生

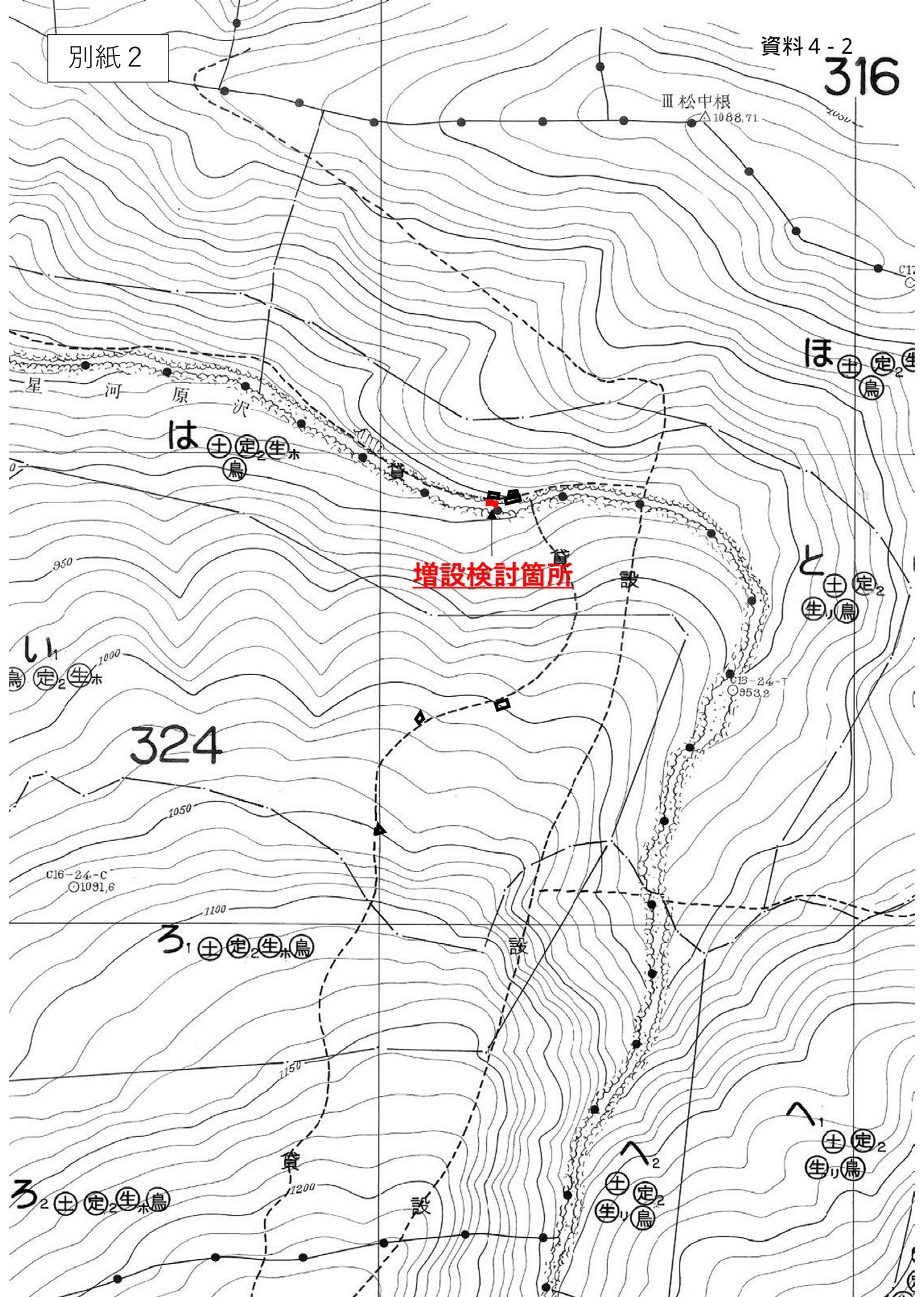
C16-24-C
○1091.6

3₁ ① ② ③
鳥 定 生

3₂ ① ② ③
鳥 定 生

① ②
鳥 定 生

① ②
鳥 定 生



早池峰シカ監視員による自動撮影カメラ調査結果について

【調査の概要】

- ・ うすゆき山荘～河原の坊地区に2台、小田越地区～早池峰山山頂付近に3台のカメラを設置し、シカの生息状況を調査した。
- ・ 得られた画像を解析し、シカを同定した上で、撮影頻度（1日当たりの撮影頭数（撮影頭数／撮影日数））を算定した。
- ・ 令和元年度からの定点観測により、シカの動向について十分に情報が得られたこと等から、令和5年度以降、カメラの設置台数を減らすことで維持管理の負担を軽減し、シカ監視員による捕獲に重点をシフトした。

1 撮影頻度の比較(同一個体による重複を除く)

(1)年度ごとの撮影頻度の比較

(単位:頭/日)

エリア	標高 (m)	設置場所	カメラNo.	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7※	増減(R7/R6、%)	
河原の坊	940	うすゆき山荘から300m西側	S01	2.16	1.55	1.33	0.60	0.62	0.71	0.76	107%	
	1,065	ビジターセンター西側	S02	0.56	1.25	1.04	2.04	2.01	2.24	2.50	112%	
小田越	1,180	小田越下	I08	1.06	0.71	0.69	0.32	1.00	0.64	0.63	98%	
	1,370	小田越一合目下樹林帯	I11	1.17	1.58	0.57	0.54	0.91	0.91	1.31	144%	
	1,530	小田越二合目水場	I12	1.13	0.23	0.26	0.31	0.28	0.04	0.28	700%	※R6は故障により撮影頻度小

※ R6年度より撮影頻度が増加した地点

(2)令和7年5月～10月の各カメラの撮影結果

(単位:頭/日)

エリア	標高 (m)	設置場所	カメラNo.	設置開始	設置終了	設置日数	シカ♂	シカ♀	シカ仔	シカ不明	シカ計	1日当	備考
河原の坊	940	うすゆき山荘から300m西側	S01	5/22	10/29	161	25	88	3	6	122	0.76	
	1,065	ビジターセンター西側	S02	5/22	10/29	161	67	274	44	18	403	2.50	
小田越	1,180	小田越下	I08	5/13	10/19	160	34	42	5	19	100	0.63	
	1,370	小田越一合目下樹林帯	I11	5/23	10/19	150	70	74	34	18	196	1.31	
	1,530	小田越二合目水場	I12	5/23	10/19	150	25	5	0	12	5	0.28	

2 結果

河原の坊：標高940m（カメラS01）、標高1,065m（S02）では増加した。

小田越：標高1,180m（カメラI08）のみ減少、それ以外は増加した。

3 まとめ

昨年度と比較して、シカの撮影頻度が増加した地点は5地点のうち4地点となった。

早池峰シカ監視員報告書とりまとめ

1 清水シカ監視員 [主に花巻地域を担当]

時期	内容
R7. 5. 22	シカ監視用カメラを設置（9台設置） <ul style="list-style-type: none"> 今年度、河原坊地域には4月20日～21日に掛けてシカが到達 予想した通り最初の侵入個体は若いオスシカであった ① S-9 河原坊駐車場北側 標高 1030m 4/21～4/30 シカの出現率 2.90 頭/日 5/1～5/22 シカ出現率 1.13 頭/日 ② S-6 うすゆき山荘東西側県道沿い 標高 940m 4/20～4/30 シカ出現率 5.27 頭/日 5/1～5/22 シカ出現率 4.00 頭/日
R7. 5. 29	・監視カメラ S-5 を確認中、近い三方向の距離からメスの警戒声が聞こえたため、メス3グループが小田越峠地域に既に侵入していると思われるが、姿は見えなかった。

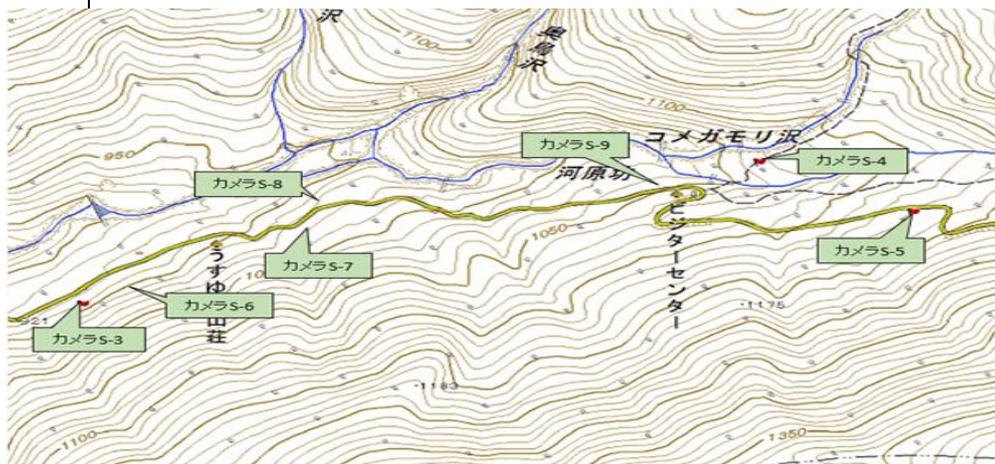
R6. 6. 29	<ul style="list-style-type: none"> 5月下旬以降、幼子を伴った写真が多くなったことから、5月中旬から出産が始まったと思われる。 首に GPS を装着したメス個体が本年も数か所のカメラに写っていたが、この個体は数年前から毎年幼子を伴い河原坊地区に戻っている。この様に毎年戻る個体が早池峰には多数居ると推測される。 夏を早池峰で過ごした親子シカは来年以降戻る可能性が高い。
-----------	--

カメラ番号	集計期間	～ 05/31	～ 06/10	～ 06/20	～ 06/29	頭数計	出現率
S-1	05/29～06/29	4	55	6	4	69	2.15 頭
S-2	05/29～06/29	16	67	30	8	121	3.78 頭
S-3	05/22～06/29	10	16	20	11	57	1.46 頭
S-4	05/22～06/29	23	64	70	51	208	5.33 頭
S-5	05/29～06/29	3	9	8	3	23	0.71 頭
S-6	05/22～06/29	61	81	61	22	225	5.76 頭
S-7	05/29～06/29	6	23	8	12	49	1.53 頭
S-8	05/29～06/29	2	17	23	2	44	1.37 頭
S-9	05/22～06/29	32	57	69	44	202	5.17 頭
	計	157	389	295	157	998	



監視カメラ S-09（河原坊駐車場北側）河原坊地域で確認されている GPS 装着のメス個体

R7. 7. 20	<p>河原坊登山道を御神坂（1500m）まで踏査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山頂から中岳の南斜面上部の草地に二ホンジカの姿が毎日確認されているとの情報を得て確認と捕獲を目的に向かったものの、シカを確認することは出来なかった。 ・高度差 500m、岩と石の未整備の登山道を登りシカが草地に居る時間内に到着する事は難しい ・射獲した場合、個体迄の間には岩場や沢があり危険個所が多い為に個体の搬出作業は困難  <div data-bbox="882 546 1337 757" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>標高 1330 m コメガモリ沢 県ネット設置場所 ネット の左側は草本類が繁茂、シカが侵入した様子無し</p> </div> <p>S-4 6/29~7/20 シカ出現率 3.39/日</p>																																																																																
R7. 8. 1	<ul style="list-style-type: none"> ・監視カメラ設置付近の痕跡等 <p>河原坊駐車場北側の地点以外では足跡や食痕が薄いと感じた。理由として</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 県道沿いの草本類が採食に適さない状況となり標高が高い場所へ移動 ② 登山シーズンとなり県道の交通量が多くなった事による活動時間（夕方～早朝）へ変化 ③ 標高が高い涼しい高所地域へ移動 <ul style="list-style-type: none"> ・うすゆき山荘付近に繁茂する笹が数年前より薄くなり見通しが良くなったが、シカが積雪期ながらも遅くまで付近に残っていることが要因ではないか ・監視カメラ S-9 を設置している河原坊駐車場北側は、一年間監視を続けた結果、シカが早池峰南斜面へ侵入する際にコメガモリ沢を渡河する移動コースの一つであると確信した 																																																																																
R6. 9. 4	<ul style="list-style-type: none"> ・中岳や早池峰の中腹以上で採食する個体が見えなくなった。採食可能な草本類減少が原因か。 ・データから繁殖準備の為、高山帯からうすゆき山荘付近の麓へ移動する個体が増加していることが伺える。 ・数カ所でオスのコールを吹いたが、反応は無かった。今年も繁殖行動は中旬からと思われる。 																																																																																
カメラ番号	<table border="1"> <thead> <tr> <th>集計期間</th> <th>オス</th> <th>メス</th> <th>不明</th> <th>幼子</th> <th>頭数計</th> <th>出現率</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S-2 08/01~09/04</td> <td>***</td> <td>***</td> <td>***</td> <td>***</td> <td>0</td> <td>***</td> <td>頭</td> </tr> <tr> <td>S-3 "</td> <td>1</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>1</td> <td>29</td> <td>0.85</td> <td>頭</td> </tr> <tr> <td>S-4 07/20~09/04</td> <td>5</td> <td>23</td> <td>51</td> <td>2</td> <td>81</td> <td>1.76</td> <td>頭</td> </tr> <tr> <td>S-5 08/01~09/04</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>0.23</td> <td>頭</td> </tr> <tr> <td>S-6 "</td> <td>6</td> <td>29</td> <td>28</td> <td>1</td> <td>64</td> <td>1.88</td> <td>頭</td> </tr> <tr> <td>S-7 "</td> <td>2</td> <td>115</td> <td>194</td> <td>5</td> <td>316</td> <td>9.29</td> <td>頭</td> </tr> <tr> <td>S-8 "</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>10</td> <td>0.29</td> <td>頭</td> </tr> <tr> <td>S-9 "</td> <td>7</td> <td>15</td> <td>21</td> <td>3</td> <td>46</td> <td>1.35</td> <td>頭</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>21</td> <td>200</td> <td>320</td> <td>13</td> <td>554</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	集計期間	オス	メス	不明	幼子	頭数計	出現率		S-2 08/01~09/04	***	***	***	***	0	***	頭	S-3 "	1	14	13	1	29	0.85	頭	S-4 07/20~09/04	5	23	51	2	81	1.76	頭	S-5 08/01~09/04	0	2	6	0	8	0.23	頭	S-6 "	6	29	28	1	64	1.88	頭	S-7 "	2	115	194	5	316	9.29	頭	S-8 "	0	2	7	1	10	0.29	頭	S-9 "	7	15	21	3	46	1.35	頭	計	21	200	320	13	554		
集計期間	オス	メス	不明	幼子	頭数計	出現率																																																																											
S-2 08/01~09/04	***	***	***	***	0	***	頭																																																																										
S-3 "	1	14	13	1	29	0.85	頭																																																																										
S-4 07/20~09/04	5	23	51	2	81	1.76	頭																																																																										
S-5 08/01~09/04	0	2	6	0	8	0.23	頭																																																																										
S-6 "	6	29	28	1	64	1.88	頭																																																																										
S-7 "	2	115	194	5	316	9.29	頭																																																																										
S-8 "	0	2	7	1	10	0.29	頭																																																																										
S-9 "	7	15	21	3	46	1.35	頭																																																																										
計	21	200	320	13	554																																																																												



R7. 9. 16	<p>・新たに監視カメラを設置 設置場所：河原坊駐車場西 300m、コメガモリ沢左岸、県道北川 150m 昨年 10 月に初確認したヌタ場への設置であり、使用頻度と頭数確認を目的とする。</p>
R7. 9. 23	<p>・河原坊駐車場西 ヌタ場の状況 9 月 4 日に設置したカメラについて、1 2 日間に 30 頭の個体が利用していた オス：14 頭 メス：7 頭 不明：9 頭（不明 9 頭は泥浴びに来ているオスと推定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用時間：夜間 20 頭、昼間 10 頭、その内メスが 6 頭であった ・繁殖期に入りオスがメスの群れを追いながら移動する期間に移行 ・夏季に中岳～早池峰山頂の稜線下部で採食する多くの個体が観察出来たが 9 月に入り個体数が激減、河原坊周辺の麓へ移動したと考えられる ・オスのコールが朝夕に頻繁に聞こえ繁殖が最盛期を迎えていると思料 ・うすゆき山荘周辺、三ヶ所入山し踏査 <p>上部が笹により覆われている標高 900～1000m 前後の上部地域は人間が容易には立入る事は難しくシカにとって良好な生息環境が形成※繁殖地の可能性大</p> <p>暖冬の昨今、河原坊周辺でも積雪期に遅くまで残る個体数が増加。 積雪が残る例年 4 月中旬にはシカが侵入し草本類が無い時期であり樹皮や笹を採食していると思われる。河原坊周辺の林床に於いて笹の減少など環境変化が懸念。</p> <p>河原坊駐車場の西のヌタ場には角の形状から 5～6 頭のオスが出没</p>
R7. 10. 21	<p>・岳ゲートから小田越まで車に依る巡回、その後、清廉ノ滝左岸 踏査。 踏査したコースにはシカの足跡や糞などの痕跡は多数あった。 メスシカが鳴く警戒の音が何ヶ所かで聞こえ、河原坊など上部地域から麓に降りて来た個体が集まり始めたと感じた。</p> <div data-bbox="869 1637 1361 2007" data-label="Image"> </div> <p>・オス 1 頭を捕獲し解体処理を実施。</p> <div data-bbox="395 2029 1337 2092" data-label="Text" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>河原坊地域で確認されている GPS 装着のメス個体（春から秋まで確認）</p> </div>



撮影場所：うすゆき山荘西側 300 m ※イノシシ、三年連続 10 月に撮影実績あり

R6. 10. 29

- ・監視カメラの回収
- ・データ映像の確認 期間：R7/10/03～R7/10/29

S-1	出現頭数	7頭	内、オス	4頭
S-2	"	95頭	"	16頭
S-3	"	20頭	"	9頭 ※ 10/16 イノシシ1頭が写っていました
S-4	"	118頭	"	42頭
S-6	設置カメラ故障の為、データ無し ※自宅で作動状態の確認を実施、全く撮影されず			
S-7	出現頭数	15頭	内、オス	4頭
S-8	"	18頭	"	6頭
S-9	"	58頭	"	30頭

- ・オスの頭数は写真により確認できた実数。例年、この時期は繁殖期でありオスが移動を繰り返す為、通常よりオスの出現数が増加する傾向。
- ・河原坊付近で何度か撮影されていた GPS 装着のメスシカが清廉ノ滝に設置してあるカメラに 10 月 23 日に写ったことから、メスシカが麓に移動を開始したと思われる。
- ・10 月 28 日の寒波積雪の為、河原坊より上部に居たシカの群れが下流部へ降りたと推測



2 井上シカ監視員 [主に宮古地域を担当]

時期	内容
R7. 4. 13 R7. 4. 24	<ul style="list-style-type: none"> 巡視箇所：タイマグラ～砥草林道～県道 25 号線唐～市道荒川 タイマグラ林道～高桧沢林道 砥草林道設置カメラ解析（設置期間：2024 年 10 月～2025 年 4 月 20 日） 標高 850m 地点：2024 年シカ終認 2025 年 1 月 10 日 2025 年シカ初認 4 月 15 日 令和 6 年度は終認 10 月 29 日、初認 4 月 12 日であり、冬期の無シカ期間が短くなった。（4 月：2 頭捕獲）
R7. 5. 4、 5. 5 5. 23	<ul style="list-style-type: none"> 小田越下（標高 1177m）による 2025 年シカの小田越近辺での初認日は 5 月 6 日。昨年よりも 9 日遅い。 監視カメラ G-02、I-11、I-12 を設置 I-11 カメラに初めてイノシシが撮影された。この場所は標高 1 3 7 5 m、おそらく北上山地最高標高の出現になると思われる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="427 808 850 1140" style="text-align: center;">  <p>I-8 カメラに写った R7 初シカ</p> </div> <div data-bbox="887 808 1321 1140" style="text-align: center;">  <p>I-11 カメラに写ったイノシシ</p> </div> </div>
R7. 7. 22	<ul style="list-style-type: none"> 巡視箇所：小田越～早池峰山頂～あきらケルン～小田越 小田越コースならびに縦走コース <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><山頂付近のシカによる食害状況について></p> <ul style="list-style-type: none"> 一昨年前から食害が顕在化し始めた山頂東に広がる通称「御田植場」 比較的平坦地となっており土壌も形成されていて多種多様の植物が見られる。 登山道は木道部が多く湿生植物群落を保護している。 今回の巡視で山頂部の食害について、門馬コース分岐を境に東と西で違いが顕著であることが判明した。それを主にコバイケイソウという植物により比較 （比較資料は別紙に添付） 御田植場にあった多くの植物は、ほぼ全種食害されたとみて良いだろうと思われた。 門馬分岐～早池峰山頂から西の縦走コースに関しては、目立った食害は見受けられない </div>
R7. 9. 17 9. 19	<ul style="list-style-type: none"> タイマグラ～砥草林道～県道 25 号線～小田越～河原の坊、荒川林道 市道荒川線・横沢線を巡視
R7. 10. 23 10. 30	<ul style="list-style-type: none"> 小田越コース五合目往復、薬師岳コース 門馬コース七合目往復

コバイケイソウの食害被害の状況



- ・ 山頂付近の航空写真。門馬コースおよび分岐点から東側は食害顕著（コバイケイソウ全滅）
- ・ 分岐点より西側山頂までは食害見られず



コバイケイソウ（小梅蕙草、学名: *Veratrum stamineum*）はユリ目シュロソウ科（メランチウム科：APG 植物分類体系による分類）シュロソウ属の多年草。

コバイケイソウ

各場所の状況(2025年7月末現在)



① 御田植場のコバイケイソウ群落食害状況



② 御田植場木道、シカによる堀跡



堀跡拡大



② 御田植場木道、シカの足跡



③山頂直下コバイケイソウ群落 食害なし
定点観測地点の群落

早池峰地域への防鹿柵の設置結果について

1 防鹿柵設置の経緯

平成 30 年 3 月に開催された早池峰地域シカ対策部会において、早池峰地域の高山植物をシカの食害から守るための防鹿柵の設置について提案を受け、平成 30 年度から東北森林管理局と連携して高山植物の群生地等に防鹿柵を設置している。

2 令和 7 年度の設置概要

令和 7 年度の岩手県及び東北森林管理局による防鹿柵設置概要は以下のとおりであり、設置の総延長は 1,123m（岩手県分 750m、東北森林管理局分 373m）となっている。

※令和 5 年度まで、東北森林管理局が実施していた小田越 3～4 合目については、裸地化により植

	場 所	期 間	概 要	備 考
岩手県	河原の坊	R7. 6. 6～10. 10	3 か所（周囲 15m、35m、50m）	H30 新設
	小田越 2 合目	R7. 6. 6～10. 10	1 か所（周囲 340m）	R1 新設 R2 150m増設
	小田越登山口	R7. 5. 19～10. 10	1 か所（周囲 70m）	R1 新設
	薬師岳登山口	R7. 5. 19～10. 10	1 か所（周囲 40m）	R1 新設
	県道 25 号線沿い	R7. 5. 19～10. 10	3 か所（周囲 40m、70m、90m）	R2 新設
	計		9 か所 750m	
東北森林管理局	門馬	R7. 5. 15～10. 30	6 か所（周囲 30m、23m） ※R6 新設 （19m、14m、18.5m×2）	H30 新設 R6 4 箇所新設
	河原の坊	R7. 5. 28～10. 22	3 か所（周囲 50m×2、150m）	H30 新設 R1 100m増設 R3 50m新設
	計		9 か所 373m	

生の回復見込みが低いことから実施箇所から除外。

3 結果

これまでの実施結果は次のとおり。

[成果]

- (1) 柵を設置した内部では植生が回復しており、食害防止に一定の効果がある。
- (2) ボランティア協力のもと、県設置柵の設置後の支柱の打ち直し、網の張り直し作業を 7/6（小田越 2 合目）及び 8/28（薬師岳登山口、小田越 2 合目）の 2 回実施した。

[課題]

- (1) 小田越 2 合目や県道沿いの防鹿柵設置後にシカが侵入したため、設置時に正しく網を張る、支柱の間隔を狭める、ペグを打ち込み方向の調整をするほか、点検・メンテナンス作業を定期的実施する必要がある。
- (2) 防鹿柵を設置していない場所でのシカによる被害が確認されているため、現状以上の防護が求められている。



10/10 河原の坊登山道防鹿柵
柵内は植物が繁茂している。



7/6 小田越2合目防鹿柵内
食痕が見られる。

【参考：防鹿柵の設置期間（県設置分）】

- H30：8月27日から11月1日（67日間）
- R1：7月22日から10月24日（95日間）
- R2：5月26日から10月28日（156日間）
- R3：5月20日から10月29日（163日間）
- R4：5月19日から10月26日（161日間）
- R5：5月30日から10月26日（150日間）
- R6：5月21日から10月17日（150日間）
- R7：5月19日から10月10日（145日間）

現状と今後の取組について

1 早池峰地域シカ対策の課題

(1) 防護

防鹿柵はシカの食害防止対策として効果があるが、県及び東北森林管理局の2者が中心となって防鹿柵を設置しているところ、2つの機関による労力では設置範囲の拡大には限界がある。一方、センサーカメラ調査結果では防鹿柵を設置していない高標高でもシカの出没が確認されているなど、現状の防鹿柵の範囲以上の防護が求められている。

(2) 捕獲

これまで、シカ監視員による捕獲のほか、早池峰山周辺地域での県捕獲事業（指定管理鳥獣捕獲等事業）によりシカの捕獲を進めてきたところであるが、シカの生息数に大きな減少は見られない。これ以上のシカの増加を防ぐため、引き続き、県の捕獲事業等によりシカの捕獲圧を維持する必要がある。

2 今後の対応

(1) 防護

既設置分の防鹿柵は引き続き現状を維持し、県道通行止め解除後に雪解け状況を注視しながら作業時期を検討し、早めの柵設置を行う。また、設置後は年2回の点検を実施する。

令和8年度は、県設置分の防鹿柵について、希少種が確認されている小田越5合目に1か所、シカの出没が増加している高標高に2か所、合計3か所を新たに設置する。

[令和8年度の防鹿柵設置対応（案）]

備考	場所	延長	設置年度
既設	河原の坊	3か所（周囲15m、35m、50m）	H30～
	小田越2合目	1か所（周囲340m）	R1～
	小田越登山口	1か所（周囲70m）	R1～（R2延長増）
	薬師岳登山口	1か所（周囲40m）	R1～
	県道25号線沿い	3か所（周囲40m、70m、90m）	R1～
新設	小田越5合目	1か所（周囲約15m）	R8～
	御田植場、賽の河原	2か所（周囲約90m×2）	R8～

(2) 捕獲

引き続き、県の捕獲事業（11～2月、指定管理鳥獣捕獲等事業）により、シカの捕獲を推進していく。なお、令和7年度の同事業では、早池峰山周辺地域区域において1,400頭を捕獲（全体：10,000頭）することとしている。

その他、シカ監視員による捕獲や、公益社団法人岩手県猟友会が行うシカ一斉捕獲との連携により、早池峰山周辺地域におけるシカ捕獲圧を維持する。

(3) その他（植生回復モニタリング）

防鹿柵では部分的な防護に限られるため、防鹿柵を設置していない箇所は裸地化が危惧される。しかし、山全体を覆うことは現実的ではないことから、既に裸地化した範囲の植生回復を図ることで、裸地化の進行を抑制する対策を検討したい。

令和8年度は、試験的な方法として以下のとおり植生回復モニタリングを実施する。数年間のモニタリング結果を踏まえ、裸地化範囲の植生回復方法を検討する。

【植生回復モニタリング（案）】

設置場所：小田越3～4合目（三陸北部森林管理署がR5まで防鹿柵を設置していたが、現在裸地化している箇所）

方法：2m×2mの防鹿柵を下記表のとおり4か所設置し、植生の回復具合を毎年モニタリングする。

	植生マット		計
	有	無	
勾配が緩い面	1	1	2
斜面	1	1	2
計	2	2	4

令和8年度 早池峰山植生保護柵 設置位置図(案)

● 岩手県 ● 三陸北部署 ● 遠野支署

(この他、県道25号線沿いに岩手県が3箇所設置)

三北署19m、18m設置

三北署19m、14m、23m設置

三北署30m設置

R8新設 86m、96m

R8新設 15m

R8新設 植生回復
モニタリング予定

遠野支署50m設置

遠野支署150m設置

遠野支署50m設置

県50m設置

県35m設置

県15m設置

県340m設置

県70m設置

県40m設置

早池峰山

早池峰剣ヶ峰
1827

門馬ノエ

河原坊コース
(通行止)

小田越コース

小田越

薬師岳登山道

県道25号線

河原坊

0 1000 [m]

1:20,000